

武庫川流域委員会

委員長 松本 誠 様

2004年8月30日

市民オンブズ西宮 前川 協子

第6回貴委員会（2004年8月23日）を傍聴し、リバーミーティングを控えて、以下の意見を具申しますので、適切に対処して下さい。

記

・流域委員会における要望書等の取り扱いについて

第6回の席上で、H委員より発言のあった「武庫川堤防技術検討委員会」に関する件については、その実態について委員長の御認識が無いように見受けられましたが、本件については既に去る5月7日付要望書の第4項で、私も意見具申をしております。にも関わらず、本件については、その後も御審議が無い俛に今日に至ったことを遺憾に存じ、かねてより県民側から要望書等の取り扱いについて明文化するよう求めてきた経緯と併せ、改めて運営要領の中でルール化されるよう望みます。

・縦割り行政の改善について

既存データや資料を含む関連情報については、関係自治体や各課間で共有するものとし、担当者へは貴会議への出席と共に発言を求めて、相互の認識不足や齟齬に陥らぬよう御配慮下さい。その実行が県の3年連続赤字財政下で、審議の屋上屋を重ねたり、通過儀礼にしか過ぎぬ愚を防ぐ最善の手法だと考えます。

・リバーミーティングの位置付けについて

貴委員会の第7回目として認定されるのか否か位置付けが不明瞭です。因みに現地視察（2004年6月1日）は第3回目としてカウントされていますが、リバーミーティングについては、第4回議事録の中で「…本委員会を傍聴して頂いた方々を対象にして…」と重ねて発言されながら、運営委を経た上で配布されたピラでは、「武庫川づくりに関心のある総ての流域住民」とシフトされ、委員各位の出席率も不明です。このような曖昧なスタンスでは、長きに亘って要求してきた委員各位との「意見交換の場」も成立が危惧されるので、位置付けを明確にして下さい。

・運営委員会の公開について

上記 項に鑑み、「運営委の問題が生じた場合はその都度是正」という約束事に従い、議論の経過を知りたいので、運営委を公開して下さい。

・議事骨子の配布について

会議のまとめは彼我の合意と認知の上で重要な事柄なので、以後は傍聴者にも議事骨子を配布して下さい。

・傍聴者発言の議事録について

議事録記載前に必ず本人のチェックをお願いします。

以上

武庫川の水系計画を樹立するには、委員会において本質的な論議を踏まえなければなりません。本質的なものとして、現況の把握、洪水計画の基本理念、投資と効果、環境問題などは一体如何なっているのでしょうか？今の状態では流域計画の審議検討を、さて置き本末転倒して末梢的な問題に終始して居るとしか考えられません。

まずは、現況の把握としての流域の地形解析、河道計画の設定条件、河床変動調査、流出土砂量調査、過去の水文調査及び流量調査、利水計画・洪水流量の解析、洪水の想定氾濫区域の財産調査、現在での河川計画の進捗状況(整備率)等々の大きな課題は全て委員は承知済みなのではないでしょうか？

計画洪水の基本となる降雨量の設定の条件は、果たして現計画でよいのか、既往最大洪水として水系計画としては如何にあるべきなのか？更に現状の河川計画との整合性は如何なのか？また、河道の安定条件としての流出土砂計画の検討は如何なのか？と数限りなく課題が有ります。

また、公共投資と経済効果の比較については、今迄には特に公共河川事業では充分と検討されて居りません、武庫川流域としての妥当投資額の検討は行われて居るのでしょうか？

更に人命・財産が第一優先されるべきです、被害区域の動産・不動産の経済調査済みなのではないでしょうか？投資は経済効果として評価されますが、人命は評価の金額として計上できません、万一にでも人命を失うような洪水被害があってはならない事です。

環境問題も重要な課題でレッドデータブックに掲載される貴重な動植物の環境保護をしなければならぬのは勿論ですが、これは計画上であくまで配慮すべき条件であり、まずは人命は最優先された安全第一である計画でなくてはなりません。

最近の鹿児島・新潟・福井等の災害状況で見られるように、予測出来ない降雨に対してはハイドログラフ(降雨・流量曲線)でのピークカットする事が必要となり、不測の事態においては河道計画だけでは洪水を防ぐ事は不可能で、これに対処するには遊水地計画とダム計画以外には考えられません、ダムには治水ダムと利水ダムが有りますが、洪水調節機能を持つ治水ダムが最も有効です。

また、一方で現況河道計画改修とダム計画との経済比較検討もして公共投資をしなければなりません、その様な事項に対して住民の十分な理解が得られる様なアピールが為されてきたのでしょうか？

以上の課題についての審議に、どれ位の時間を要するのか、何時までにとの共通の目的意識は如何なのか？もっと内容のある様に！と委員会の運営に疑問が残ります。

更に、本質的な事項の要因分析して具体的なスケジュール(PERT手法)で運営を確立して何が大切か？を委員会でも共通の認識の上で一刻も早く充分と審議される事を望みます。